

J-STAGE サービス方針説明会 FAQ

(これまでに開催した説明会等で JST によくいただくご質問へのご回答となる内容をまとめております)

【申し込み・審査について】

- ・申し込みは発行機関単位ですか。それとも雑誌（ISSN）単位ですか。
⇒ISSN 単位です。したがって、J-STAGE に掲載されている雑誌があっても、新たな（ISSN が異なる）コンテンツを公開したい場合には改めて申込が必要となります。
- ・カレントは J-STAGE で公開していますが、バックナンバーを ELS で公開しています。
この場合、J-STAGE へ新規に申し込む必要はありますか。
⇒J-STAGE への新規申し込みは不要ですが、ELS データの移行を希望する場合は ELS データ移行申請書のご提出が必要となります。
- ・NII-ELS に刊行が終了したジャーナルが掲載されていますが、J-STAGE へ申し込むことはできますか。
⇒後続誌が刊行されている場合のみ審査の対象となります。
- ・2008 年までジャーナルアーカイブの記事が J-STAGE に公開されていますが、J-STAGE には改めて申し込む必要がありますか。
⇒お申込みが必要です。J-STAGE は発行機関様ご自身でデータを作成し、掲載いただく点がジャーナルアーカイブとは異なる点になりますので、改めて J-STAGE データの作成・掲載の体制を有しているかを確認させていただきます。
- ・審査には冊子体の提出が必要とありますが、電子ジャーナルの場合はどのようにすればよいですか。
⇒どのような記事が掲載されているかを確認しますので、参照に必要な情報をご提出ください。
- ・審査に提出が必要なものに「発行計画」とあるが、どのような場合に必要となりますか。
⇒新しく創刊するコンテンツを J-STAGE に掲載しようとする場合に必要です。
- ・当初は Web 掲載機能を使い、後で XML 掲載機能を使う場合は、再度申し込み・審査を受ける必要がありますか。
⇒必要はありません。
- ・現在 J-STAGE で公開しているジャーナルがありますが、Web 掲載機能を使って掲載す

る場合、申込みは必要ですか。

⇒必要はありません。

・査読誌の場合、申込時に「査読規定・体制」の提出は必須でしょうか。

⇒必須でお願いします。ただし、必ずしも「査読規定」と記載されたものである必要はありません。審査・査読の要領に関する記述があれば問題ございません。

【ISSNについて】

・ISSNの取得は必須ですか。

⇒J-STAGE 登載にあたっては、ONLINE ISSN を取得いただきますが、審査のお申込みの時点では不要です。審査を通過し J-STAGE のご利用が決まった後、発行機関様にて ISSN センターへ申請をお願いいたします（J-STAGE のご利用が決まる前の申請は行わないでください。）

・ONLINE ISSN の取得が必須とのことですが、PRINT ISSN を取得していれば取得は不要となりますか。

⇒取得は必要です。同じコンテンツでも媒体が違えば別の ISSN が必要となります。したがって、PRINT ISSN をお持ちでも J-STAGE に登載していただくにあたり、改めて ONLINE ISSN の取得が必要となります。

・そもそも予稿集、会議録は ISSN を取得できるのでしょうか。

⇒逐次刊行物の定義に合えば取得可能です。詳細は国立国会図書館様のサイトよりご確認ください。 <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/issn/index.html>

・前身誌のオンライン ISSN を取得することは可能ですか。

⇒可能です。ISSN センターに申請をお願いいたします。

【著作権について】

・コンテンツの著作権の扱いはどうなりますか。

⇒コンテンツの著作権は発行機関様(あるいは著者、取り決めによる)に帰属します。JST に著作権が譲渡されることはありません。

・予稿集の著作権が著者にあり、まだ許諾をとっていないのですが登載可能ですか。

⇒著者許諾をとった上で登載してください。

・論文に掲載する図版等に関して、印刷物への引用は認めるがインターネット上の公開を

著作権所有者が認めない場合、J-Stage 掲載時に当該箇所は黒塗り等の処置をするという対応でよろしいでしょうか。

⇒J-STAGEに搭載する記事は著作権所有者から許諾を得たものを掲載していただく必要がございます。黒塗り等で許諾が取れば掲載可能かと存じます。

- ・ 複数機関が会議を共同開催したとき、予稿集掲載はどう運用すればよいですか。
⇒関連するすべての機関から許諾がとれていれば掲載可能です。運用(コンテンツの搭載作業・お問い合わせ対応等)の体制を整えた上でお申し込みください。
- ・ 出版社と共同出版している(両方に著作権がある)雑誌を掲載することは可能ですか。
⇒出版社側から許諾がとれていれば、掲載可能です。
- ・ (権利上の理由等で)一部記事を掲載しないといった運用は可能ですか。
⇒可能です。
- ・ 一部の記事についてはクリエイティブコモンズのライセンスを表示し 2 次利用を可能とすることはできますか。
⇒可能です。ただし、資料単位で一律の表示となり、記事単位での表示ができないので、今後の取り組みにしたいと考えています。

【アップロードについて】

- ・ 新規の利用を考えていますが、今後発行される記事だけでなく、バックナンバーの記事を掲載することは可能ですか。
⇒可能です。まずは新しい記事から掲載をいただき、バックナンバーも順次掲載いただければ幸いです。
- ・ Web 搭載機能で一記事ずつアップロードするのは非常に大変です。
⇒XML ファイル形式による複数記事の一括アップロードが可能です。(従来方式)
- ・ PDF のセキュリティ設定(コピー不可、印刷不可等)をしてもよいですか。
⇒問題ありません。
- ・ アップロードする論文のサイズに制限はありますか。
⇒1 記事あたりの PDF、全文テキスト等のファイルサイズ上限は 100MB です。
- ・ BIB 形式ファイルでのアップロードは可能ですか。

⇒BIB 形式ファイルのサポートは平成 26 年 3 月末日をもって終了しました。書誌 XML 形式や全文 XML 形式でアップロードしてください。

- 映像等のアップロードは可能ですか。

⇒PDF と同時に公開できる電子付録で可能です。画像、動画、音声、文書、圧縮ファイル等が対象で、1 ファイルあたり 50MB まで、1 記事あたり 100 件までアップロードできます。

- 学会の雑誌は、論文と会員向け記事（査読記事でない）が混同しています。会員向け記事も掲載可能ですか。

⇒発行機関様で決めていただいで結構です。ただし、利用規約で禁止する記事の掲載はできません。

- 現在、PDF ファイルを学会の HP に掲載していますが、J-STAGE には書誌事項のみを掲載し、本文 PDF は学会の HP に掲載することは可能ですか。

⇒J-STAGE は全文情報をもつプラットフォームという位置づけのため、J-STAGE ご利用の際は全文情報（PDF）を掲載していただきます。

- 演題が 300 記事ほどありますが、1 つの PDF ファイルでアップロードしてもよいですか。

⇒お手数ですが、J-STAGE では 1 記事ずつ書誌事項と PDF ファイルを用意してアップロードする必要があります。

- 予稿集で 1 枚の PDF に複数の記事が含まれているが、PDF を分割する必要はありますか。

⇒PDF を分割する必要はありませんが、開始ページの下に連番を付して、記事が区別できるようにする必要があります。

- 過去の記事は画像 PDF しかありません。Web 登載機能で作業するにあたり画像 PDF ファイルをアップロードすることは可能ですか。

⇒システム上は透明テキストがない画像 PDF でもアップロードは可能ですが、全文検索はできず、入力いただいた書誌情報のみが検索対象となるので、閲覧の機会が減少してしまう可能性があります。過去分の画像 PDF を透明テキスト付に作り直すのは負荷も大きいため致し方ない面もありますが、今後登載する記事については透明テキスト付 PDF の作成をお願いいたします。

- すでに XML 登載機能を利用してジャーナルを公開中です。web 登載機能利用にあたり、

新たな申請は必要となりますか。

⇒既に J-STAGE の資料として申請を受けていれば、新たな申請は必要ありません。Web 登載機能リリース後、ご自身で切り替えてご利用いただけます。

・同一ジャーナルで XML 登載機能と web 登載機能の併用は可能ですか。

⇒Web 登載機能リリース後、既存の XML 登載機能との併用利用が可能です。ただし、オプションの早期公開機能は、XML 登載機能のみのご利用となります。

【認証について】

・認証設定はどのようなものがありますか。

⇒ID/パスワードによる認証、IP アドレスによる認証、クレジット決済機能のある PPV(論文一部売り)の設定ができます。

・どのような単位で認証をかけられますか(巻?号?記事単位?)

⇒巻・号単位、記事単位いずれも可能です。

・無料公開は必須ですか。

⇒J-STAGE はオープンアクセスのコンテンツ公開を原則としております。制限をかける場合は、1年程度の認証(エンバーゴ)を推奨しています。

・利用規約で、利用承認後1年間記事が公開されない場合、JST は利用を取り消すことができるかとあるが、認証設定期間を1年以上かけた場合は適用されますか。

⇒利用承認後、発行機関様の都合等で初回公開までのプロセスが滞り、1年間かかっても初回公開ができず、公開までのメドが立たないような場合に適用することを想定しています。したがって、認証設定期間を1年以上かけた場合に適用することを想定したものではありません。

【コンテンツの内容について】

・抄録は必須ですか。

⇒抄録が存在する場合は、必ず入力してください。抄録がない場合は、書誌情報画面にコンテンツの1ページ目画像が表示されます。これは Google Scholar からの検索にヒットするための仕様です。詳細は資料『Google 等との連携強化およびオープンアクセス対応方針について』をご参照ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/pdf/AY04S260.files/renkei0612.pdf>

・1 ページに複数記事が掲載されているのですが、J-STAGE への登載は可能ですか。
⇒可能です。1 ページに複数記事ある場合『開始ページ』の下に『連番』パラメータを振って記事を区別してください。

・現在 J-STAGE でジャーナルを公開していますが、大会予稿集等は外し、論文のみを公開しています。今後は、ISSN が同じ逐次刊行物の増刊号という扱いで、大会予稿集等も登載できますか。
⇒可能です。

・全文公開ではなく、書誌・要旨のみの公開でも利用は可能でしょうか。
⇒J-STAGE は記事の全文公開が必須ですので、要旨のみ公開のご利用は出来ません。

・ページ番号がない記事はどのように公開すればよいでしょうか。
⇒開始ページがない場合は、例えば「前付きページの場合：i～ix、後付ページの場合：23-1～23-10」のように、一定のルールを決め、他の記事と重複しないページ番号を付番いただくようお願いしています。具体的な登載方法については、採択決定後、「ご利用説明会（仮）」等でご相談ください。

【オプションサービスについて】

・投稿審査システムを利用できますか。
⇒投稿審査システムの利用は公募制でご応募いただき、審査の上、その機能が有効に活用されるコンテンツを発行する機関様に優先的に提供しています。そのためご応募いただいても必ずご利用いただける訳ではありません。ご了承ください。また、利用機関様の利用状況を確認させていただき、継続利用の審査も行います。
なお、今年度（平成 27 年度）は公募を実施いたしません。平成 28 年度以降の公募実施につきましては今後のご案内をお待ちください。

・投稿審査システムを利用した場合、どちらの登載機能で登載しないといけないという制約はありますか。
⇒投稿審査システムは査読工程を支援するオプションです。採択された論文の登載方式の選択について制約はありません。

・Web 登載機能では早期公開機能は使えないのでしょうか。
⇒早期公開機能は、XML 登載機能でのみ利用可としています。

【DOI、外部サイト連携、引用リンク】

- ・バックナンバーの記事にも DOI は付与されますか。
⇒付与されます。
- ・ CrossRef DOI と JaLC DOI の違いは何でしょうか。 CrossRef DOI の選択は可能でしょうか。
⇒登録機関が異なりますが、DOI の性質に違いはありません(CrossRef DOI は CrossRef が登録、JaLC DOI はジャパンリンクセンター(JaLC)が登録)。今後 J-STAGE に参加する発行機関様のコンテンツには、原則 JaLC DOI を登録します。
- ・ DOI が付与されるにあたり、発行機関の費用負担は発生しますか。
⇒現時点では発行機関様に費用を負担いただくことはありません。ただし、CrossRef DOI の場合は、JST が CrossRef に対しその費用を支払っています。将来的には、CrossRef DOI を選択された発行機関様に一部費用負担をお願いすることも検討しています。
- ・ J-STAGE に登載することで、外部サービスにも登録がされるのでしょうか。
⇒J-STAGE からは、メタデータを外部連携先に送りますが、外部連携先に登録されるかは外部連携先の判断（基準）によります。
- ・ Web 登載機能を利用した場合、XML 登載機能を利用した場合と同様に引用文献リンクはつくのでしょうか。
⇒リンク先が特定されれば、どちらの機能を利用した場合でもリンクはつきます。引用文献リンクに限らず、登載機能による公開情報の差はありません。

【サポートについて】

- ・ 人的サポートはあるのでしょうか
⇒J-STAGE 初回公開までの技術的支援（システム設定など）を行います。また、ご利用開始後はメールによるお問い合わせをお受けしますが、お問い合わせの手間がないように FAQ やマニュアルを充実させていく予定です。
- ・ 利用開始当社は Web 登載機能で始めて、後で XML 登載機能も利用したいという希望がでてくるかもしれません。スムーズに XML 登載機能が活用できるようなサポートはありますか。
⇒利用機関様向けの合同説明会を定期的を開催する予定です。その中で XML 登載機能のデモンストレーションを行う予定ですので、ご活用いただければと思います。

- ・担当が変わった際、改めて登載機能のデモを行っていただくことは可能ですか。
⇒基本的には機関様内部でしっかりと引継ぎを行っていただきますが、利用機関様向けの合同説明会を定期的を開催する予定です。その中で登載機能のデモンストレーションを行う予定ですので、ご参加いただくことは可能です。
- ・採択後の利用説明会には、データ作成を委託する外部業者の参加は可能ですか。可能な場合、学会も参加すべきですか。
⇒委託先のご参加は可能です。また、説明会では登載機能のデモだけでなく、**J-STAGE** をご利用いただくにあたっての全般的な説明もありますので、委託先だけでなく発行機関様も必ずご参加をお願いいたします。

【NII-ELS データ移行について】

- ・NII-ELS 以外の過去記事を移行してもらうことは可能ですか。
⇒NII-ELS 以外のコンテンツは NII と JST による移行支援の対象外です。発行機関様ご自身で過去記事のアップロードをお願いいたします。
- ・NII と JST に移行申請を行えば、データ移行はすべてやってもえるのでしょうか？
⇒データ移行の主体は発行機関様になります。NII は ELS データの出力を、JST は ELS データの J-STAGE への取り込み（プログラム処理）を行います。データの確認・修正・公開処理を発行機関様に実施頂きます。
- ・すでに刊行が終了している過去の資料は移行できますか？
⇒J-STAGE は現在も発行が続いているカレント誌を収録の対象としているため、移行の対象外となります。ただし J-STAGE の登載を行う資料の前身誌については移行の対象となります。
- ・NII-ELS への電子化依頼を平成 28 年（2016 年）3 月までは行う予定です。その後から J-STAGE へ移行する予定ですが、どの号から J-STAGE に掲載すればよいでしょうか。
⇒NII-ELS に電子化を依頼した最後の号の後に刊行されたカレント誌から J-STAGE への掲載を行ってください。
- ・NII-ELS で掲載されている PDF 之中に、スキャンが粗いものがある。J-STAGE へ移行する際、PDF を差し替えることは可能ですか。
⇒J-STAGE へ移行データを取り込んだ後、かつ、J-STAGE 公開前のタイミングで PDF ファイルを差し替えることが可能です。また、公開後にも差し替えは可能ですが、差し替えの履歴が J-STAGE 上に残りますので、できるだけ公開前に差し替えをお願いいたします。

・NII-ELS の PDF には、ELS 掲載記事であることを示すヘッダとフッタが記されているが、J-STAGE 移行後もヘッダとフッタは残るのですか。

⇒移行後は残りません

・移行したくない記事は削除することは可能ですか。

⇒NII で抽出された記事は、J-STAGE で全て取り込みますが、公開前に発行機関様で削除をすることが可能です。

・移行する記事が多い場合、J-STAGE での公開前確認に時間がかかってしまいますが、問題はありますか。

⇒過去分の記事については、J-STAGE として問題はありません。

・NII-ELS には最後まで掲載したうえで、全てのデータを移行する予定です。その場合、今後掲載するデータは、順次移行申請を行わなければならないのでしょうか。手続きについてご教示ください。

⇒J-STAGE への移行支援サービスは 1 度のみご利用可能です。移行支援サービスの申込み時期については NII にご確認ください。

・移行する記事の選択は可能ですか。

⇒移行はジャーナル単位で申請いただく方針のため、個々の記事の選択はできません。J-STAGE へ掲載しないコンテンツについては、移行完了後に発行機関様で削除いただくこととなります。

・NII-ELS に掲載済みの書誌データと PDF はそのまま J-STAGE に移行されると考えてよろしいでしょうか。データの作り直しなどの作業は必要ですか。

⇒書誌情報・抄録等のメタデータおよび PDF は移行支援の対象項目となります。NII と JST 間で移行データの処理を行いますので、発行機関様が J-STAGE 用にデータを作り直す必要はございません。発行機関様は、データ移行完了後、J-STAGE での公開前にデータの確認・修正を行えるようになります。

・発行機関でのデータ修正が可能と伺いましたが、修正作業のタイミングはいつになりますか。また、どの程度まで修正が可能なのでしょうか。

⇒データ移行完了後、公開日を設定いただくまでがデータ確認・修正期間となります。移行支援で登録したデータに対し、発行機関様が編集登載システム上の操作で、書誌情報の追加・修正、PDF の差し替え、不要記事の削除が可能です。

移行支援は J-STAGE の登載機能で NII-ELS データを確認・修正できるところまでを行います。100%正確なデータ移行はシステム上難しいため、発行機関様には公開前にデータのご確認・修正が必要となることをご認識いただければ幸いです。

【その他】

・ サービス利用料金はかかりますか。

⇒原則無料です。(一部オプション機能のみ発生します)

J-STAGE が提供する機能やプラットフォームは、無料でご利用いただけます。ただし、電子ジャーナルの制作・データ作成・登載にかかる費用については、発行機関様でご負担いただくことになります。

・ 登載用のデータ作成には、どのぐらい費用がかかりますか。

⇒記事数の大小や、データ作成を外注するか否かによっても変動すると思いますので、具体的な金額をお示しすることはできません。

・ 過去に「J-STAGE Lite」の説明会に参加しましたが、「J-STAGE Lite」は今回の説明会にありました「Web 登載機能」のことを指すのでしょうか。

⇒そのとおりです。現行の J-STAGE の他に、「J-STAGE Lite」という独立したサイトが立ち上がるかのような誤解を招きやすいため、「Web 登載機能」に変更いたしました。